

スプロール化した都市の中の隠された智恵

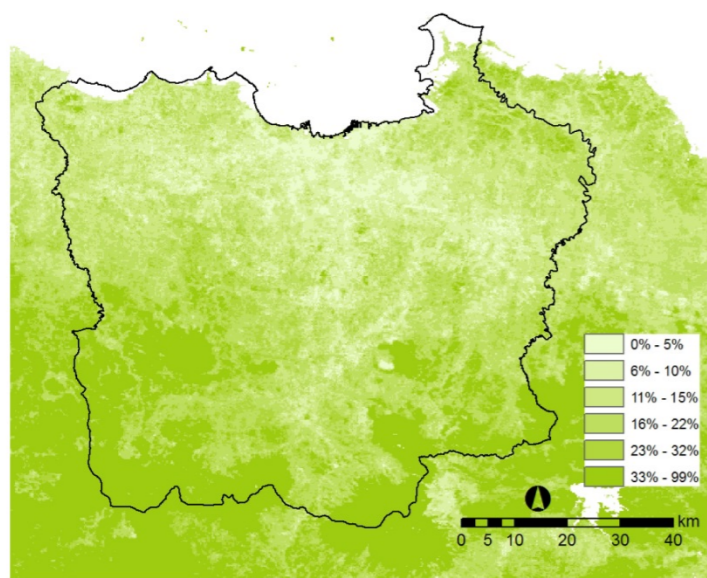
— 東南アジアにおける都市の「無秩序」を考えるワークショップの開催

本企画の目的は、都市のスプロール化、とりわけ農地から住宅用地や商・工業用地への転用に着目して、東南アジアの都市で指摘されるスプロール化を、否定的なものとして一刀両断するのではなく、それを無計画の知—あるいは生活の中で育まれている環境共生としてとらえる、肯定的評価を考えるためのワークショップを開催する。

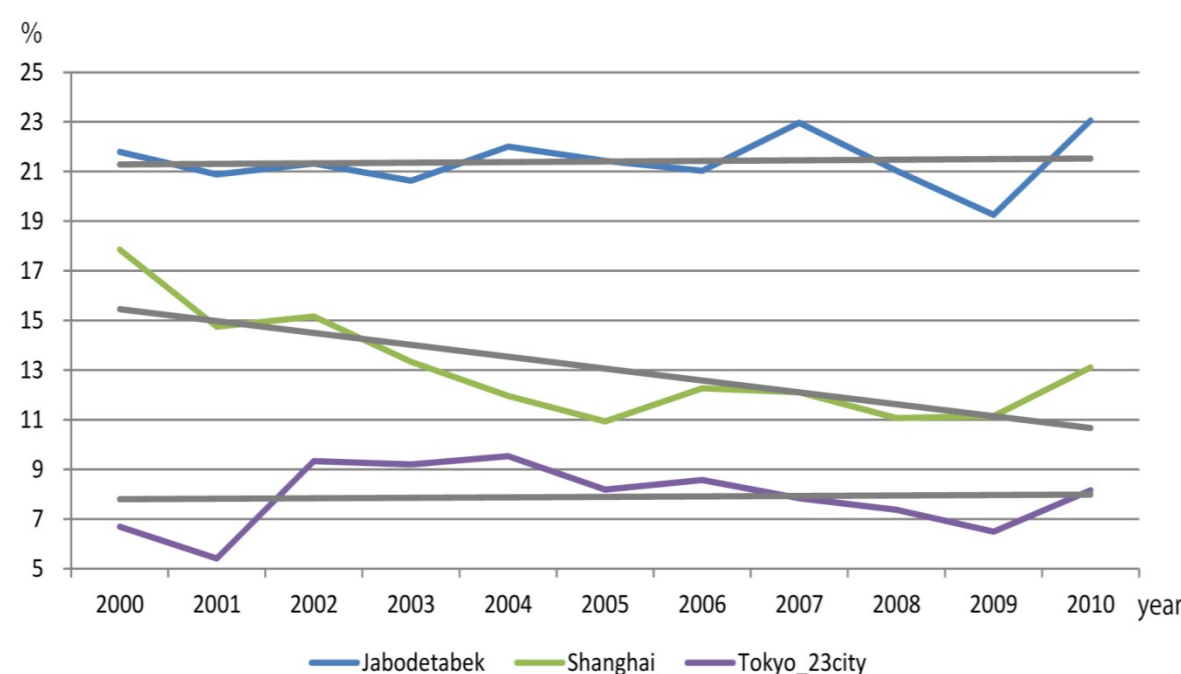
目的

今日の都市化の現象に対する議論では、1970年代の「農地から都市化（宅地や商・工業用地）」による転用が気候変動に大きな影響を及ぼしているとされている。しかしながら、ジャカルタ都市圏の過去10年の緑地率の変化を見ると、人口・都市域が拡大しているにもかかわらず、都市内緑地を維持する、きわめて興味深い結果が出ている。つまり、ジャカルタ都市圏は、都市と農村が混在する都市構造で都市域が広がり、この発展経路が地球環境への悪影響を軽減していると考えられる。

ワークショップでは、地理情報システム（GIS）を援用した都市の空間的な把握を通して東南アジアにおける、1）情報の取得可能性、2）分析の手法・基盤構築の共有化、3）都市のスプロール化の功罪について議論する。さらに、都市の持続可能性を評価する重要な「環境・経済・社会」の3側面を考慮した時間・スケール・分野が横断できる情報基盤の構築を視野に共有化をめざす。



ジャカルタ都市圏の緑地率（2010）



ジャカルタ都市圏・東京・上海における緑地率の変化

日時

2015年1月30日（金）
10時～17時

場所

総合地球環境学研究所

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 457 番地 4

発表者

新井健一郎（東南アジア都市史）、岩崎巨典（農業環境工学）、
林憲吾（建築・都市史）、原祐二（環境農学）、
三村豊（歴史・地理情報学）

コメンテーター

相沢伸広（政治学）、国広ジョージ（建築家）谷川竜一（建築史・都市史）

主催・後援

地域研究コンソーシアム（JCAS）、総合地球環境学研究所